

■小西行長 武將。キリシタン大名。石田三成と並ぶ文治派巨頭で武断派と対立、関ヶ原の戦いに敗れ、自刃避け斬首に。

こにしゆきなが

・・・・・・1558＝ 京都で、堺出身の商人小西隆佐の次男に生まれる。兄は如清。

桶狭間の戦い・1560＝ 2歳：

將軍義輝自刃1565＝ 7歳：この年、ヴィレラら宣教師が京都から追放され、堺に避難。

岐阜楽市楽座1567＝ 9歳：

織田信長入京1568＝10歳：

石山合戦始・1570＝12歳：この年、オルガンティーノが京都に入る。

室町幕府滅亡1573＝15歳：

長篠の戦い・1575＝17歳：この年、堺の津田宗及の茶会に父隆佐が出席。

安土城築城・1576＝18歳：この年、京都で建設中の教会(南蛮寺)の献堂式、この間、備前福岡の豪商・阿部善定の手代であった源六(魚屋九郎右衛門)の養子となり、**「商売のために度々宇喜多直家の元を訪れるうち、才能を見出され、**

上杉謙信没・1578＝20歳：この年、南蛮寺が完成。**「直家の家臣、すなわち武士になり、織田信長に仕える直家により、豊臣秀吉への使者として遣わされて、気に入られる。堺の商人の出として、瀬戸内海の内海運に関わっていたことから、**

石山合戦終・1580＝22歳：**「豊臣秀吉から、いきなり舟奉行に任命されて、水軍を率い、宣教師からも、海の司令官とみられている。**

バリエーノ謁見 1581＝23歳：**「小豆島の管理を任せられ、東瀬戸内を支配。この年から、秀吉の命を伝える取次をつとめるようになり、**

本能寺の変・1582＝24歳：**「本能寺の変に際しては、海上からサポートして、秀吉の中国大返しを実現させ、**

賤ヶ岳の戦い・1583＝25歳：秀吉の使者として、屋島の出陣に赴いた際、守っていた海賊から鉄砲を撃たれ退散、

・・・・・・1584＝26歳：**「高山右近の後押しもあって、洗礼を受けキリシタンとなる。洗礼名アゴスチノ。**

豊臣秀吉関白1585＝27歳：この年、父隆佐が河内蔵入地代官となる。**「雑賀水攻めで活躍し、瀬戸内管理による収益全てを与えられるようになり、摂津守に任ぜられ、豊臣姓を名乗ることを許され、小豆島1万石を与えられる。**

秀吉太政大臣1586＝28歳：千利休の茶会に臨席。この年、父隆佐が、石田三成とともに、堺奉行に任命される。日比屋了珪妻子に関わる事件があった際、宇喜多秀家の乳母を介して、秀吉に嘆願し、妻子への刑の回避に成功。

パレン追放令 1587＝29歳：**「秀吉の取次として朱印状を送り、対馬宗氏に朝鮮国王の来朝を督促し、博多再興にも関与するうち、宣教師の軽率な行動はやまず、伴天連追放令に至り、改易となった高山左近を、小豆島に匿い、秀吉に諫言。**

刀狩海賊取締1588＝30歳：**「ある事件で、信仰の浅さを自覚、以後、一層のキリシタン保護を決意。肥後一揆を成敗した功で、ついに宇土城を与えられ、肥後国南半20万石を領するに至り、肥後でも、左近を匿い続ける。**

・・・・・・1589＝31歳：**「肥後でのこの年、帰国する少年遣欧使節を連れてヴァリニャーノが来日すると、秀吉の疑惑を招かないように上洛させ、途中、朝鮮出兵を回避すべく、対馬の宗義智も受洗させ、ともに、秀吉を欺き続けるが、**

文禄の役・1592＝34歳：**「失敗。秀吉の命で、冷静に判断できる先鋒にふさわしい第1軍として、第2軍の加藤清正とともに出兵、釜山を落とすと、朝鮮に降伏を促す書状を送ろうとして、清正に阻止されるなど、両者の連携は全くなく、やむを得ず、ソウルから、平壤へと侵攻、明使と休戦を約束すも、明は、すでに大軍を送り出している状況で、**

方広寺大仏殿1593＝35歳：**「平壤を退き、京城からも撤兵するが、戦を続けようとする武断派の大名加藤清正や福島正則らと対立。**

小豆島通交・1594＝36歳：この間、規模を拡大したセミナリオなど、イエズス会の活動を支援。

慶長の役・1597＝39歳：**「なんとか講和にこぎつけようと、秀吉が望んだ朝鮮南半4道の割譲は伏せることで、明使と秀吉の直接対話を実現したが、明使の滞在先の寺で話が出てしまい、秀吉に伝わって、和議は決裂。当初は、明への通路としての朝鮮という位置づけが、朝鮮を領土とする戦へととなって、再派兵となってしまいが、**

豊臣秀吉没・1598＝40歳：**「秀吉が死去したため、自然に終戦となる。秀吉に駆り出された、大名たちにとっては、何の恩賞もなく、膨大な出費が残るだけの状況になり、これが、秀吉側近で、差配していた石田三成とともに、恨みを買って、関ヶ原の戦いで、多くの武將が家康方に流れる原因をつくることになり、**

関ヶ原の戦い・1600＝42歳：**「関ヶ原の戦いでは、石田三成とともに、西軍を率いるが、敗れて捕えられ、三成とともに、処刑されるに至ったのである。死に臨み、自書はキリシタンの教義に反するとして切腹を断り、斬首された。**

関ヶ原西軍の将としてだけでなく、秀吉をも裏切った人物として、江戸時代ばかりか、近年に至るまで極悪人とされて、その存在が消されてきた。昭和50年代になって、ようやく、宇土城趾に銅像が建立された時にまもなく、銅像が傷つけられることを怖れて、囲いがつくられたほどであった。